

[翻訳]

ソーシャルワーク〈カリキュラム〉への 社会開発的視点の導入(その2)

— ソーシャルワークにおける社会開発志向型のコースに関する
アジア太平洋地域ワークショップ報告 —

Introducing a Social Development Perspective into Social Work Curricula at All Levels.
Report on a Regional Workshop on Social Development-oriented Courses in Social Work

David Cox et al., Translated by Tooru Okada & Keiichi Hayashi
D・コックス他 著 岡田 徹・林 敬一 訳

訳者前文

翻訳文は、1997年4月初旬、2週間、オーストラリア・メルボルンの郊外、ラ・トロープ大学開催されたワークショップ「ソーシャルワーク〈カリキュラム〉への社会開発的視点の導入」を翻訳したものである。訳者の1人である岡田はこのワークショップに日本代表として招かれた。本翻訳の(その1)は、2004年(第6号)の本誌に訳出した。(その3)は次号に掲載予定である。

第3章 ソーシャルワークのカリキュラムのために提案された社会開発の内容

序

ソーシャルワーク系の学校が社会開発的な見地に立って教育やトレーニングを行なうことができることは、すでに第2章で概説したとおりである。本章では、社会開発の内容が理念的には、そこで呈示された4つのレベルのそれぞれに即して提供されるべきであるということを提案してみたい。

ここで準専門職、専門職、そしてソーシャルワーク専攻の学部教育と大学院生教育といったそれぞれのレベルのための概要を呈示し、そしてその上で短期トレーニング・コースを提供するにあたってソーシャルワーク系の学校が果たすべき役割を考えてみたい。

この4つのレベルのすべてに、一般的な内容と特殊な内容の双方に対するニーズがあるように思われる。すべてのレベルにおいて求められている人材には、つぎのような理解が求められている。すなわち、それぞれのレベルに即した、一般的な用語法でいうところの社会開発や、第1章で呈示したわれわれ独自の社会開発的見地に包摂されるものを反映した社会開発に関する理解がこれである。くわえて、社会開発の特殊な領域は異なったやり方においてではあるが、

おそらくこの4つのレベルのすべてに包摂されるであろう。

4つのレベルに包摂される社会開発

(1) 準専門職レベル

コースによっては、一般的な準専門職コースという枠内で社会開発の特殊な領域に的がしぼられているような場合がある。また別のコースにおいては、一般的な社会開発の内容が主たる役割を演じ、おそらく社会開発の特殊な領域や一般的な準専門職的技術に的がしぼられるような、一般的な準専門職トレーニングが焦点化されるような場合もある。

(2) 専門職あるいは学部レベルのソーシャルワーク

このコースが専門のソーシャルワーカーすべてに用意されているという事実は、社会開発の一般的な側面が決定的に重要であることを意味している。それに対して、社会開発の特殊な側面はおそらく選択科目として扱われている。しかし、社会開発的見地がこうしたコースに浸透していくべきであると、われわれは進言しておきたい。

(3) 大学院レベル

社会開発の特殊な領域での専門分化の機会が存在するように、一般的な社会開発における専門分化もまた、可能であることが予想される。ソーシャルワーク系の学校が複数存在している国々では、かりに特殊な領域がそれぞれの学校において異なっていれば、このことは全体をカバーするという点で有利にはたらくことになるだろう。

(4) 短期コース

短期コースは準専門職コースとどうよう、一般的な社会開発の内容と特殊な領域の双方に、あるいはそのいずれかに焦点を当てることになる。どちらになるかは多くの場合、数日から数週間までと異なるコースの期間の長さ次第である。

ここで論議される4つのレベルのカリキュラムのそれぞれに関連した提案は、カリキュラムに付け加えられる社会開発の内容にのみ関係するものであって、カリキュラム全体に関係するものではないことを認識しておくことが重要である。さらに、そこに含められる必要がある、また含められることが可能である社会開発の内容は、たとえ状況によって変化すると実感されたとしても、提案される社会開発の内容はかなり理念的で包括的な1つのリストであるにすぎない。

第1節 ソーシャルワーク修士レベルのカリキュラムのために提案された社会開発の内容

修士レベル・序

社会開発的視点に立った修士レベルの教育は、社会開発現場での自己の業務能力を高めるた

めに、あるいは社会開発現場に関する自己の一般的な理解を改善するために研究科に入ろうと願う人たちのためにコースを提供している。このコースはソーシャルワーク系学部の卒業生や他学部の卒業生のために構想されており、こうした学生の多様性はカリキュラムを構想するさいにきわめて重要な要素である。ここで関説される修士コースは、ソーシャルワークの専門資格につながる学位が授与されるタイプのものではない。それは、社会開発を重視し得る、そして多くの脈絡で社会開発を重視すべきであるとする、より高いレベルの研究である。

修士レベルに社会開発的見地を導入することは以下の理由からも重要である。社会開発でもとめられているリーダーシップが主として、社会開発によってもたらされるものを広く認識することができる力量をもった修士レベルでの教育や、より高いレベルの教育を受けた人々に由来しているからである。ソーシャルワーク一般の修士レベルの教育や、社会開発に特化した修士レベルでの教育は基本的には学部卒業生のリーダーシップ技術の能力構築と連動している。そしてこうしたリーダーシップ技能はこれから何十年にもわたって社会開発の現場にとってきわめて重要であるように思われる。

修士レベルでの学習目標

社会開発的見地に立ったソーシャルワークの修士レベルの修了生は、学部での専攻がソーシャルワークであれ他の学問分野であれ、つぎのような能力を備えておくべきである。

- 1) 性差、年齢、人種、民族、階層、宗教、障害等々との関する自己覚知をもって行動し、また他の人々が自己覚知をもって行動するように支援する能力。
- 2) みずからの実践に省察を加え、またより広い社会のなかで社会開発を支える価値を弁護する能力。
- 3) 国際的、国民社会的、地域社会的な脈絡で社会開発的視点を理解し、実行に移す能力。
- 4) 社会開発的見地と他の開発的見地との違いを認識する能力。
- 5) 人々の生活経験に強い影響を与える状況や、より広い環境の下での（政治的、経済的、社会的、文化的な）状況を分析する能力。
- 6) 行動計画のために参加型調査を構想し、実行する能力。調査結果を他の研究領域と関連づけて国際的、国民社会的そして地域社会的なそれぞれ固有なレベルで政策を広報し、展開する能力。
- 7) 参加過程をとおして政策、計画、プログラムを構想し、実行し、モニターし、評価する能力。
- 8) 社会開発を遂行するために必要な情報技術や、人々の能力構築のための資源や制度を活用する能力。
- 9) 社会開発のための戦略や技術の適用に役立つ、個人、集団、コミュニティ、専門職そして社会組織を動員することのできるリーダーシップや連携を発揮する能力。

10) 社会開発に関与する人々のための研修プログラムを開発・実施する能力。

社会開発的視点を反映させた「修士レベルのカリキュラム」に包摂された核となる領域

ここで提案される核となる領域についての以下の概要には、多くの領域の一般的なカリキュラム内容が含まれている。その理由は、核となる領域が社会開発にとって独創的であるからではなく、この領域における教育が社会開発的役割を遂行するために必要不可欠だからである。

核となる領域 (1) 社会開発

序

社会開発を専攻する修士課程の学生たちが社会開発の現場のありとあらゆる場面での確かな理解を得ることは至上命題である。彼らはやがて、その現場で指導者としての役割を果たすように期待される。このコースには、さまざまな現場経験を有し、そして広汎多岐にわたるバックグラウンドをもった学生たちが参入してくるので、コースの策定にあたっては高度な柔軟性が保たれていることが重要である。とはいっても、こうした学生たちが修得しなければならない、重要であると思われる一連の項目がある。これらは以下に掲げられる通りである。

学習目的

先に確認された修士レベルのための10項目の学習目標すべてがここでの核となる領域と関係している。

内容

内容には、地域社会の実情に応じて、以下のものが含まれるべきである。

1) 社会開発の全体像

この単位には、つぎのような一連の項目が含まれている。

社会開発の定義、歴史、理論そして動向。開発や社会開発へのさまざまなアプローチの比較。

2) 社会開発過程

この単位にはつぎのようなものが含まれる。

社会開発に関連したソーシャルワークの実践モデル、その構成要素、目的、戦略そして成果。

そして実践という見地に立ってこれらを統合する能力。

3) 価値を基盤に据えた社会開発へのアプローチ

この単位には、社会開発の価値や哲学、そして社会開発への倫理的アプローチが包摂されなければならない。

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域社会の実情に応じて、つぎのようなものが含まれるべきである。すなわち、成人教育の方法、経験学習、シミュレーション練習、政策文書の講読、社会開発報告書の評価、事例発表と分析、現場訪問、地域社会からの発表者、有力な情報提供者や利

害関係者からの聴き取り、そして村落・都市社会開発の実情に関する情報公開等がこれである。

核となる領域 (2) 調査

序

社会開発への調査アプローチや、社会開発の中で調査を活用することはきわめて重要である。こうした面での単位の組み合わせによって、学生たちには一般的にみても、またこと社会開発へのその適用という点に限ってみても、幅広い、確固たる基礎をもった調査への理解が提供されることになる。

学習目標

学習目標には、学生がつぎのような能力を身につけることが含まれている。

- 1) 行動計画のための参加型調査を企画・実施する能力。
- 2) これらの結果を他分野の研究と関係づける能力。
- 3) 国際的、国民社会的そして地域社会的な、それぞれ固有のレベルで政策を広報し、展開する能力。

内容

この核となる分野の内容は常にそうであるが、地域社会の実情に応じて変化する。またそれは一般的な内容と特殊な内容とに分かれる。

1) 一般的な内容

量的・質的調査を含む一般的な調査の策定と方法

2) 特殊な内容

参加型調査や行動調査に特定の焦点を当てる。

政策調査

迅速な評価方式

社会的影響力の測定評価

これらの領域での調査へのコンピューターの利用

提案された調査への特殊なアプローチの採用と適用

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域社会の実情に応じてつぎのものが含まれるべきである。

調査報告（内容、方法、結果）の分析。

研究発表（文章化と口頭発表）

核となる領域 (3) 政策展開

序

政策領域は、人々のウエル・ビーイングを高めるという目標という点でも、またその目標を

達成するための戦略という点でも、社会開発の基礎部分である。開発現場のリーダーたちがさまざまな政策過程に熟知し、社会開発の目標に最も寄与する政策を策定したり、策定に影響を与えたりする力量をそなえていることが重要である。

学習目的

学習目的には、地域社会の事情に応じて、学生がつぎの能力を獲得することが含まれるべきである。

- 1) 人々の生活条件に影響を与えるような政治・経済・社会・文化状況を、より広い環境の中で分析する能力。
- 2) 行動計画のための参加型調査を企画・実行する能力、調査結果を他分野の研究と関連づける能力、そして国際的、国民社会的そして地域社会的なそれぞれ固有のレベルで政策を広報し、展開する能力。
- 3) 参加過程を通して政策、計画、プログラムを策定・実行し、モニター・評価する能力。
- 4) とりわけ、国民社会レベルでの政策展開過程における各種の利害関係者間の同意を取りつける能力。

内容

この分野に必要な内容には、地域社会の実情に応じて、つぎのような一般的かつ特殊的な内容が含まれるべきである。

1) 一般的な内容

課題の確認と、目標と戦略の定式化

欲求の測定分析

意図的および非意図的な結果の確認

政策の定式化と実施過程

資源に対する欲求の測定分析や、資源の確認や資源の獲得

情報管理と政策策定、そして評価過程における官僚機構や社会制度の役割

2) 特殊な内容

社会開発計画

社会開発的見地に立った社会政策の比較研究

政治的側面の評価測定を含む新規政策の導入

政策セクター（保健、教育等）のそれぞれに関連した問題

国家政策の脈絡や過程のもつ意味。

新聞他のメディアを通じた政策の普及

政策研究における社会指標の適切な利用

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域社会の実情に応じて、政策配置、政策プロジェクト、政府

やその他の機関の政策文書についての学習、メディア報道の利用、有効な政策の批判的検討、地域に根ざした政策課題の調査等が含まれるべきである。

核となる領域(4) 計画策定と評価

序

社会開発の現場では、適正なプロセスをたどって社会開発の目標を達成していくような、適正なプログラムの開始の第一歩に究極的な意味が置かれている。それゆえ、この分野の計画設計はきわめて重要な領域である。現場の指導者には豊富な経験や知識がもとめられる。この核となる分野はこうした目的と連動している。

学習目的

学習目的は、参与過程をとおして政策・プラン・計画を策定・実施し、モニター・評価することができるようになることである。

内容

この分野に必要な内容には、地域社会の実情に応じて、一般的内容と特殊な内容とが含まれるべきである。

1) 一般的な内容

目的設定

計画策定とプロジェクトの確認

決定過程と計画の実施

資源の確認とその配分

実行可能性の検討とモニタリング技術

プログラムの全段階におけるコミュニティの参加と協議を確保するための技術

人材養成と人事管理

評価過程

2) 特殊な内容

カギとなる開発過程としてのコミュニティの協議とそれへの参加

社会開発に相応しいセクター横断レベルでの計画策定

特殊な脈絡での特殊な社会開発目標に相応しい計画策定

計画の展開にむけてコミュニティとの協働過程と、これらを国の社会開発政策につなぐ過程

そしてその過程で、コミュニティに社会開発政策の実施のための適正な準備をさせる

計画策定や開発にあたってコミュニティとの協働に有効な教育や他の技術のもつ射程を確認する

社会開発計画の目標や過程についての評価や、こうした評価、とりわけ質的評価にたいする適正な規準

教授—学習アプローチ

適切的なアプローチには、地域社会の実情に応じてつぎのものが含まれる。

学生たちによるワークショップ形式でのプレゼンテーション

プログラムに関わるスタッフを引き立てること

情報通やコミュニティの指導者の活用、事例研究や現場訪問

核となる領域 (5) 管理・運営と情報管理

序

管理・運営という領域はいかなる組織体にとってもきわめて重要なものである。この領域は非常に重要視されており、それゆえ最大限の効率でもって、そして明確なガイドラインに沿って組織化されるべきである。社会開発はきわめて重要であるので、最高レベルの組織的関与をもって取り組まなければならない。すぐれた管理・運営の要諦は、すべての参加者から最大限の関与を引き出し得ることにあり、ありとあらゆる有効な資源を最大限に活用することにあり、そして変革は承認された社会開発の原理にもとづいておこなわれることにある。

学習目的

学習目的には、学生がつぎのような能力を身に着けることが含まれるべきである。

- 1) 人と組織の能力を開発するために、また社会開発を遂行するために必要な情報技術や資源を活用する能力
- 2) 社会開発のための戦略や技術を適用するにあたって、個人、集団、コミュニティ、専門職、社会組織等を動員する上で必要なリーダーシップや調整力を発揮する能力
- 3) 組織的な開発・行動に関係した分析技術を獲得する能力
- 4) 社会開発に関与する人材の養成プログラムを開発・実施する能力

内容

この分野に必要な内容には、地域社会の実情に応じて、一般的内容と特殊な内容が含まれるべきである。

1) 一般的な内容

経済・社会的な費用対効果の分析

財務と会計

制度編成、コミュニケーション、ネットワーキングそして調整

スーパービジョンと管理分析戦略

モニタリング技術、情報システム、過程分析の活用

組織内でのスタッフの配属やスタッフの研修

管理・運営技術へのコンピューターの導入

2) 特殊な内容

管理・運営への社会・文化的な要素の取り入れ

効率的な社会開発のための管理形態の比較

人的組織における能力構築やその強化の管理

大規模開発計画を進める組織体への人々の参加の管理

社会開発への外国援助部門の管理

社会開発という脈絡のもとで所与の国家的な脈絡や、当該の多元的なレベルと一般的な複合的なレベルを計画管理すること

社会開発担当者のトレーニング

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域の実情に応じて、次のようなものを含まれるべきである。

事例研究

模擬訓練

意思決定システム

特定のマネジメント技術を含む訓練（例えば、計画立案、スーパービジョン、報告）

スタッフの配分と支援体制

コンピューター実習室の利用

修士レベルのカリキュラムにおける選択科目

社会開発に従事する人にとって必修であると思われる知識の分野は多岐にわたっている。社会開発に焦点を当てるように企図された修士コースにこれらを含めることはある場合には重要であるが、しかし他の場合には、同じ制度の下の別の学校においてであるか別の制度下の同じような学校においてであるかは問わないとしても、学生が望ましい選択科目の単位に接近できるように設定されていることのほうが好ましいか、より実践的であるかもしれない。時として、例えば夏季集中講座のモデルを使って、ある特定のサブ地域内で従事者や学生に可能ないくつもの選択科目を設定することが適切でさえあるような場合がある。こうした主題が選択科目として扱われるべき理由は、学生たちが修士レベルの学習に持ち込む知識が人によって大きく異なっているからである。学生たちは下記のような分野のバックグラウンドのいずれかしか持っていなかったり、最小限のバックグラウンドしか持っていなかったり、あるいは広汎な知識をもっていたりすることもある。こうした分野での教育はその固有の重要性ゆえに、すべての学生に可能でなければならない。しかしこれを、すべての学生が学習する必要がある核となる内容分野と見なすことはできない。

基礎コース選択科目

基礎コースは選択科目として扱われるのに相応しい分野である。なぜかといえば、そこには社会開発の仕事に従事するために必要な基礎的な知識が少なくとも盛り込まれているからである。可能なリストは莫大であり、また最終的な選択は地域の実情を反映することになるが、優先権はつぎのような分野に与えられることを、われわれは示唆しておきたい。

社会開発に関連した応用経済学

応用政治学、特に権力と統治に関する内容

社会的多様性、その理論と実際

貧困と不平等

人権と社会正義

保健分野における社会政策

教育分野における社会政策

家族研究と家族政策（子ども、青年、女性、高齢者を中心にして）

社会開発における法制度の役割

社会開発の選択科目

上記の一般的な選択科目にくわえて、本論の先の節でリストアップしたような社会開発事業の特殊領域における選択科目をさまざまな脈絡で提供する必要がある。修士レベルで学ぶ学生たちは社会開発事業の特定領域に特化しようとしている。そして彼らは、社会開発領域の事業でリーダーシップを発揮しうるレベルまで自己の知識や技術を向上させてくれるような選択科目の提供を必要としている。

修士レベルでの知識と技術を構築するための戦略

教室での学習にくわえて、学生の専門職業的な展開能力を高めることをめざす修士レベルのコースでは、3つの重要な戦略がしばしば用いられる。そしてこれら3つの戦略はすべて、社会開発的見地に立ったカリキュラムにはきわめて相応しいものである。

1. 現場実習

ソーシャルワークのコースでは普通、特定分野の実践に関連した学生の知識や技術を拡大深化させるために、また機関やコミュニティでの実習体制を周到に整えるためにかなりの時間を割いている。社会開発の学生たちにとっても同じように、現場で過ごす実習期間がしばしば有益である。そして彼らはまた現場で、上述の5つの核となる分野のいずれかに焦点を当てながら、特殊な状況下で理論と実践を統合する技術を開発していくことであろう。現場実習は重要な学習の場であり、社会開発現場を知るうえで意味あるオリエンテーションの機会でもある。

2. 専攻研究報告

専攻研究報告を作成することは調査、分析、文章力を開発・強化するうえで最良の方法の1つである。同時に、社会開発の特定領域での知識を構築するうえでも重要な方法である。

3. 個別課題論文

個別課題論文は多くの点で専攻研究報告と似通ったところがある。個別課題論文はその半面、学習課題に関連した概念や、概念同士を結びつける1つもしくはそれ以上の理論的枠組みを精確に理解することに、より多くの強調点がおかれるという点で違いもある。個別課題論文はどちらかといえば、社会開発の特殊な領域や側面に関する個別課題の探究を意味しているし、そしてそれ自体、当該分野における問題を追究するための厳密なアプローチを準備することを意味している。

第2節 ソーシャルワーク学士レベルのカリキュラムに提案された社会開発の内容

学士レベルへの序

学士レベルのカリキュラムとは、多くの国々ではソーシャルワーカーの資格認定をうける学部卒業生レベルのソーシャルワーカー養成コースのカリキュラムのことである。そこにソーシャルワーク学士と記載されるか、ソーシャルワーク修士、ソーシャルワーク教養学士というような他の称号を記載されるかは問わない。こうした学修課程を修了したほとんどの卒業生は広汎多岐にわたる現場での直接実践レベルの仕事に雇用されて、幅広い連携の下で仕事をするようになる。すべてのソーシャルワーカーが少なくとも社会開発に関する基本的な理解をもつべきであるという点が重要である。したがって、すべてのソーシャルワーク専門教育には、社会開発の見地が含まれるべきである。社会開発への焦点化はあらゆる国と地域社会の状況に関連している。とはいえ、そこでの相異は考慮されるべきである。そうすることによって、ソーシャルワーカーは社会開発見地の主要な要素を正しく理解し、実施に移すことができるようになる。

本節の目的は、専門職業としてのソーシャルワーク教育が社会開発への焦点化を含み得ること、そして含むべき核となる領域を示唆することにある。

学士レベルでの学習目的

学士レベルの卒業生はつぎの能力を保有するべきである。

1. 社会開発の諸価値を確認し、適用する能力
2. 個々人の性差、年齢、カースト、階級、セクト、人種、民族、宗教、障害、その他こうした社会的分化に関連して人がもつ、個人的な偏見や先入観に対する自己覚知と感受性をもって行動する能力
3. 社会開発の広汎で特殊な脈絡、わけても利用可能な資源やサービスのネットワークを含む実

- 践的脈絡からなる現実、そしてあらゆる状況下での社会問題の抽出素描などを理解する能力
4. ソーシャルワークや社会開発の理論や技術を理解し、適用する能力、そして能力構築やエンパワーメントをもたらすために、社会開発過程に直接実践レベルで関与する能力
 5. 政策や実施の必要性を評価し、地域レベルでの政策の影響を理解し、そうした理解を政策立案過程に適用する能力
 6. 調査報告書を理解し、利用する能力、そしてみずからの実践に基本的な調査方法を適用する能力
 7. さまざまなレベルや背景をもった専門家や他の人々とともに働く能力
 8. 情報技術に精通する能力

社会開発的見地を反映した学士レベル・カリキュラムを包摂統合するための核となる領域

学士レベル教育の核となる領域は、われわれが本質的な価値、知識、技術や洞察と見なしている領域である。そしてそれは、ソーシャルワーク課程を修了した人々が社会開発型ソーシャルワーク分野で実効ある働きをするためには、どうしても堅持しなければならない領域である。

核となる領域1 ソーシャルワークの価値

序

社会開発の際立った特徴は、それが依拠する価値にある。こうした価値は、本論文において採用されているカリキュラム開発へのアプローチの根底をなす社会開発的見地の中に含まれている。こうした価値は一般に知られているように、ソーシャルワークの価値ときわめて密接に関わっている。

もしこうした価値が理解されず、受け入れられないとすれば、一般に理解されている意味での社会開発とはいえない。それゆえ、すべてのソーシャルワーカーがみずからの実践にとって基本となるような、こうした価値の適用に理解を深め、関与を強めることが不可欠である。社会開発へのソーシャルワークの関与は、社会開発の価値がこれまで伝統的に専門職としてのソーシャルワークを支えるものとみられてきた価値と酷似していることによって支えられている。

学習目的

学習目的は、学生が社会開発の価値を確認し、適用することができるようになることである。

内容

この核となる領域の内容には、地域の実情に応じてつぎのようなことが含まれるべきである。

社会開発の価値とその運用

コミュニティ内の相異や、ワーカーの価値と、ある特定の現場の仕事に関わっている人々の価値との間にある相異を含む、異なった価値体系間での相互作用しあう実践に関わること

社会開発の価値という見地に立って実践倫理の性質を理解すること

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域社会の実情に応じてつぎのことが含まれるべきである。

状況分析

事例研究

価値葛藤の演習

現場での参与観察

振り返り学習

核となる領域 2 自己覚知と感受性

序

社会開発には、過去の発展過程によって周縁に追いやられたり、迂回されたり、排除されたり、後回しにされてきたコミュニティ内の人々を開発過程に巻き込むことに力点が置かれている。こうした力点には、ソーシャルワーカーに自分たちとは異なった背景をもった人々や、当該のコミュニティ内の支配的な人々とは異なった背景をもった人々と接することがしばしば含まれている。だからこそ、ソーシャルワーカーは自らが抱えている偏見、先入観を理解した上で仕事すること、そしてそうした自己覚知の過程をとおして偏見や差別的振る舞いが職場において演じる役割を理解することが決定的に重要である。

学習目的

学習目的には、以下のような学生の能力獲得が含まれるべきである。

1. 性差、年齢、カースト、階級、セクト、人種、民族、宗教、障害やその他をめぐって生じる自己の偏見や先入観に対する自己覚知や感受する力をもって行動すること
2. あらゆるレベルでの、そしてすべての形態の差別を認識し、これと戦う戦略をたてること

内容

内容には、地域社会の実情に応じて、つぎのことが含まれるべきである。

多様性と多元性という性質とそのインパクト

先入観、偏見、差別の性質、それらのもつ人々のウェル・ビーイングへの意味や影響、それらと闘う政策やプログラムの役割

反差別実践の枠組み（例えばグループや意思決定アプローチの活用）

一般的かつ特殊な感覚訓練

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域の実情に応じて、次のことが含まれるべきである。

感受する力や覚知を高めるコース

交流プログラム

よく選定された設営のもとでのボランティアの配置

学生のもつ文化とは異なった文化状況でのフィールドワーク（他国でのフィールドワークを含む）

事例研究

適正な政策とプログラム資料の学習

核となる領域 3 より広大で特殊な状況の理解

序

ソーシャルワークや社会開発はすべてのことがそうであるように、ある特定の状況の中で生起するものである。ソーシャルワーカーは広くおこなわれている状況の優位性を適正に評価し、その状況のもつ意味を理解することができること、そしてそこで実効性のある働きをするために必要な、適正な戦略を選択することができることが重要である。

学習目標

この領域での学習目標には、学生が社会開発のより広い状況を理解する能力の獲得や、特に利用可能な資源やサービスのネットワーク、ある特定の状況下での社会問題の抽出把握を含む実践現場を理解する能力の獲得が含まれている。

内容

内容には、地域の実情に応じて、次のことが含まれるべきである。

経済的、社会的、政治的、人口学的、生態学的および文化的動向に関する評価

説明的な枠組み特有な言い方によって引き起こされた人々にとって馴染のうすい説明的なもの
の考え方にまき込まれた衝撃的影響の分析

コミュニティ内に現存する、あるいは潜在する資源やサービスの確認と活用

地域レベルでの問題点の抽出

コミュニケーション、組織、協働、資源の活用とネットワーク化技術

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域状況に応じて、次のことが含まれるべきである。

教室での学習とフィールドワーク学習

帰納学習と小グループ学習

学生の事前学習を用いた事後の省察学習

フィールド観察

社会問題の抽出把握における実験技術や演習

資源のマッピングとエコマップ

核となる領域 4 ソーシャルワークと社会開発の理論と技術

序

ソーシャルワークや社会開発の実践場面には、潜在的にはあるが応用可能な、広汎な理論や技術が存在している。これらの多くは伝統的なソーシャルワークのコースで教授されているし、またそのほとんどは社会開発の実践現場に応用が可能なものである。しかしながら、社会開発的見地はつぎのことを示唆している。ある理論や技術は社会開発的見地に立った方が他よりも一層適用可能であると思われる。このことはここでも示唆される。

学習目標

学習目標にはつぎのような学生による能力獲得が含まれるべきである。

1. ソーシャルワークと社会開発の理論と技術を理解し、応用する能力
2. 能力構築やエンパワーメントをもたらすために社会開発のプロセスに直接実践レベルで従事する能力

内容

内容には、地域社会の実情に応じて つぎのことが含まれるべきである。

社会開発に関連した特殊な生理・身体的な、心理社会的な、社会文化的な、そして政治・経済的な諸理論、これらはしばしば、脈絡的に重要な基準に則ってこうした分野内で選択されているが、基礎コースに属している。しかしながら、社会開発的見地の中心的ないくつかの領域には、つぎのことが含まれる。

人間の成長と発達

文化の概念と意味内容

社会構造と社会理論

開発理論

剥奪され周辺に追いやられた人々のグループと一緒に働くことによって、社会開発の初期段階としての信頼感や自己評価を高める（すなわち、意識を高め、自覚を促す）。

グループ（フォーマルかつインフォーマル）と協働し、コミュニティのニーズに応えることをとくに強調する一般的なソーシャルワーク技術

能力構築とエンパワーメントに関連した概念と実践

基本的な情報管理技術

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域社会の実情に応じて、つぎのことが含まれるべきである。

技術習得のワークショップと試行実験

核となる領域3において示唆された領域の大半

核となる領域 5 政策面

序

政策研究は現在、アジア太平洋地区におけるソーシャルワークのカリキュラムの中にあっては、日陰から日のあたる場所へと移ってきている。社会開発的見地には、主に政策への焦点化が必要となる。なぜなら、政策策定や政策実施をとおして、政策過程が社会開発の基本的前提と合致すれば、人々のウェル・ビーイングは相当程度まで向上し、保障されうるからである。そうでないと、サービスや資源はコミュニティあるいは社会の中で非常に偏ったかたちで分配されてしまう。ソーシャルワーカーはしたがって、政策過程に関するしっかりとした理解を必要とし、そして政策という舞台上で建設的に働く能力を必要とする。学士レベルの卒業生の場合、このことはしばしば、この領域における初心者レベルの仕事を意味することになるが、しかしその重要性が否定されるものではない。

政策という言葉はこの脈絡では政府、企業や非政府組織等の政策を含む、幅広い政策を指している。というのは、すべての政策は人々のウェル・ビーイングに影響を与えるからである。

学習目標

この領域の学習目標には、学生によるつぎのような能力獲得が含まれている。

政策に対するニーズを査定する能力

地域レベルでの政策のインパクトを推し量り、理解する能力

そうした理解を政策策定過程に適用する能力

内容

カリキュラム内容には地域の実情に応じて、つぎのような一般的なレベルの内容が含まれるべきである。

政策策定、組織、実施、資源的裏づけ、モニタリングや評価

社会開発の特殊な重要性からみて、内容にはつぎのことが含まれるべきである。

記述的かつ分析的レベルでの、そして国や地域レベルに属するさまざまなセクターにおける

政策

現行の社会政策のさまざまな状況における衝撃

政策ギャップの存在、その文書化とその意味するところ

初心者レベルのニーズ測定や潜在的な政策対応能力の測定に関連した分析技術

政策策定プロセスと、社会開発の目標達成にあたって政策策定過程への貢献の仕方

教授-学習アプローチ

教授-学習アプローチにはつぎのことが含まれる。

関連する文献の学習

政府その他の政策資料の学習

政策状況のフィールドワーク

政策策定領域での観察

メディア報道についての学習

政府の政策やその他の政策の実施における課題練習や事例研究

政策と実行との機械的な分離を避けるための、成人中心に統合されたカリキュラム構造が配置されるべきである。

核となる分野 6 調査

序

調査は、ソーシャルワークのすべての領域においてそうであるように社会開発においても1つの重要な側面である。しかしながら明らかに、採用される調査のタイプは実践領域ごとに異なる傾向があり、このことがまた、社会開発的見地の真実の一面を示している。この核となる領域において特定の調査を強調することは、社会開発的見地にとって中心的なもの存在を示唆することになる。

学習目標

学習目標には、つぎのような学生による能力獲得が含まれるべきである。

1. 調査レポートの理解と活用
2. みずからの実践に基本的な調査法を適用する

内容

地域社会の実情に応じて、つぎの内容が含まれるべきである。

調査方法 (量的・質的調査)

評価調査

実践に基づいた調査

行動調査

参加型調査

調査報告を批判的に分析・評価し、さらにそれを利用する能力

調査提案の準備

コンピューターの利用

教授-学習アプローチ

教授-学習アプローチには地域社会の実情に応じて、つぎのことが含まれるべきである。

調査状況のフィールドワークと各種のフィールドリサーチの練習

調査プロジェクト

調査報告批判

コンピューター演習

核となる分野 7 社会開発的見地

序

社会開発事業体は不可避免的に、交差セクター的で、学際的な性格をもたざるをえない。この事業体はすべての専門職、準専門職そしてその他の人々にセクターや学問を超えて仕事をする能力を身につけるよう駆り立てるところがる。しかしながら、ソーシャルワークの役割はしばしば、利用者グループ全体のウェル・ビーイングの利益になるように、さまざまな専門家から多様な情報を引き出すことにあり、そしてそのことがワーカーに振り当てられた役割であるので、ソーシャルワーカーが学際的な枠組みの中で高レベルの技術の仕事を展開することは、より本質的に重要である。

学習目標

この学習目標にはつぎのような学生による能力獲得が含まれべきである。

異なったレベルの、異なった背景をもつ専門職との協働

内容

内容には、地域社会の実情に応じて、つぎのことが含まれる。

学際的でセクターを超えたアプローチを用いて事にあたるチームワークとしての社会開発組織論や官僚制論、そしてその実践面での意味合い

社会開発的な脈絡での準専門職との協働と、彼らに対するスーパービジョン

そしてコミュニケーション、メディア、調整、交差文化スーパービジョンといった交差学問的な領域と関連する諸技術

教授—学習アプローチ

教授—学習アプローチには、地域の実情に応じて、つぎのことが含まれる。

チームワークの模擬訓練やロール・プレイ

プレゼンテーション

フィールドワーク現場の開拓や機関訪問

事例研究

社会開発重視型の学士カリキュラムの追加領域

フィールドワーク実習

専門職業的なソーシャルワーク教育を提供しているソーシャルワークのコースでは、相当の日数を実習に充てるのが普通である。実習の目的は学生に、現場にさらされる機会、ソーシャルワーク実践に携わる機会、そして新しい技術を学びながらではあるが、現有の技術を使ってみて、必要に応じて改善する機会などを提供することにある。明らかにこうした目的のすべては、良質なフィールドワーク指導をとおして相当程度達成されている。そのためには、ソーシ

ナルワークの学生は通常、フィールドワークの指導者としての何がしかの訓練を受けた、質の高いソーシャルワーカーのもとに置かれる。

地域社会の実情によっても異なるが、多くの場合、学士レベルの学生は社会開発の重要な領域の現場にさらされる経験をもつことはないだろう。もし彼らが社会開発フィールドワークにむけて十分な準備がなされるべきであるとすれば、教室での授業はそれぞれの現場に即した適切な状況のもとで教授されることによって補足されることがしばしば必要となる。

しかしながら、多くの国々では、つぎのような困難な事態が発生している。それは、社会開発フィールドワークの配属のためだけでいえば理想的であると思われるような領域での仕事をしている質の高いソーシャルワーカーがいなかったり、訓練を受けたフィールドワーク指導者がいなかったりすることである。そうした場合には、ソーシャルワーク系の学校が実習を適正なものにする工夫や点検をおこなって、改善方策を立てる必要があるように思われる。例えばいくつかの学校では、学生グループを数週間学校の実習指導教員のスーパービジョンの下でフィールドに出している。フィールドワーク教員の訓練は、彼らが基本的なソーシャルワーク教育経験を有しているかどうかは別として、また別の戦略である。時には双方向対話型のラジオ、インターネット、電話やその他の方法を含む通信教育などのような遠隔地教育の実施も可能である。

フィールド・プロジェクト

専門職業的なソーシャルワーク系の学生はつねに、カリキュラムが許しさえすれば、フィールド・プロジェクトに関与することから大きな利益をうける。こうしたことはフィールドワーク実習と同じ目標を手にすることができるが、しかしこれはまた付加的な性格のものである。フィールド・プロジェクトのつぎの3つのモデルはソーシャルワーク系の学校によって有意義なものであると考えられている。

a. 個人プロジェクト

個人プロジェクトには、学生が選択した現場での調査の一部を実施することが含まれている。ここでは調査技術が強調されるきらいがあるが、しかし学生にとっては現場におけるニードの領域や、そうしたニードに関連した機関の業務を熟知する能力を手に入れることができる。

b. グループ・プロジェクト

グループ・プロジェクトは、フィールド・プロジェクトのチーム版として3、4名の学生で構成されるが、もっと大きなプロジェクトを組むことが許されれば、チームワークを促進するという付加的な利点を有している。

c. 学校プロジェクト

学校プロジェクトは上述の2つとは異なる役割をもっている。学校プロジェクトはスタッフと学生がともに取り組む現場での同時進行的なプロジェクトである。学校プロジェクトは個人プロジェクトとグループ・プロジェクトのすべての機会を提供するが、しかしこれらを超えている。スタッフ-学生関係が向上する。特にニードという重要な領域に対するソーシャルワークの関心にみられるように、ソーシャルワークの価値が範型化される。最大の利点は、スタッフが学生のフィールド学習の基盤づくりに関わる機会がもてることである。

フィールド・プロジェクトはソーシャルワークのすべてのコースにおいて潜在的な価値をもっている。フィールド・プロジェクトは社会開発の脈絡のなかで特別の価値をもっている。というのは、社会開発がそうした脈絡のなかで何を意味するかといったかたちで、すべての学生に親近感をもたせるからである。社会開発ワーク（social development work）という背景を持っていない学生たち、あるいは所定の実習が専攻上、他の分野であった学生にとっては、このような関与は一層利点があるだろう。

フィールド訪問

いくつかのケースでは、フィールド・プロジェクトは可能でない。そのさい、フィールド訪問がある意味ではその代用となりうる。フィールド・プロジェクトが可能な場合でさえ、フィールド訪問は学生の知識や理解を拓げることに役立つ。

フィールド訪問は観察することが本命であるという点で、フィールド・プロジェクトとは異なる。選定された実践現場の理解を発展させることは少なくとも、すべてのソーシャルワーカーにとって意義がある。社会開発という脈絡でいえば、その焦点は、社会開発的アプローチの本質的な特徴の手本となるようなフィールド訪問を用意することである。

（以下は次号に掲載予定）

目次

まえがき

序論

第1章 社会開発とソーシャルワーク教育におけるその包摂

序 ソーシャルワーク「カリキュラム」への社会開発的視点の包摂にむけて

第1節 社会開発的視点

第2節 カリキュラムの中に反映されたものとしての社会開発的視点のパラメータ

第3節 ソーシャルワーク教育カリキュラムの中に社会開発的視点を組み込むにあたっての基本目標

第2章 社会開発的視点に対応したソーシャルワーク教育システムの特徴と性格

序

第1節 社会開発的視点をもった教育やトレーニングがソーシャルワーク系学校の中で／学校によって提供される諸レベル

第2節 社会開発的視点に対応するソーシャルワーク系の学校の主要な特徴

第3節 社会開発的視点に対応したソーシャルワーク系の学校のカリキュラムの主要な特徴
(以上、第6号掲載)

(以下、本号掲載)

第3章 ソーシャルワークのカリキュラムのために提案された社会開発の内容

序

第1節 ソーシャルワーク修士レベルのカリキュラムのために提案された社会開発の内容

第2節 ソーシャルワーク学士レベルのカリキュラムに提案された社会開発の内容

(以下、次号掲載予定)

第3節 準専門職のカリキュラムのための社会開発の内容の提案

第4節 社会開発における短期トレーニング・コースのためのカリキュラムの提案

第4章 社会開発的視点をソーシャルワークカリキュラムに導入するための示唆された戦略

序

策1節 国内のソーシャルワーク系の学校の数と所在地

第2節 各地区におけるソーシャルワーク系教員のレベルと資質能力

第3節 ソーシャルワーク系学生の特質

第4節 社会開発的視点をもったソーシャルワーク教育の供給形態

第5節 教材の効用

第6節 政策策定者と中間管理職のための社会開発における短期トレーニング・コースを提供するにあたってのソーシャルワーク系の学校の関与

第7節 ソーシャルワーク教育状況におけるさまざまな形態の社会開発トレーニングの関連づけ

選択的な参照

若干の有益な専門雑誌

社会開発トレーニング資料へ接近するための連絡先

ワークショップ参加者の連絡先